

平成24年度鹿児島大学法科大学院

A 日程法学既修者認定試験 試験問題（民法）

平成23年9月10日（土曜日）
15時30分～17時20分（110分）

答案作成上の注意

1. 「解答はじめ」の合図があるまで、この1ページ目を表にして、この問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子は、このページを含めて5ページある。
3. 試験用紙は6枚配布する。
4. 試験用紙の受験番号欄に受験番号、試験科目欄に試験科目（民法）を記入すること。
5. 試験用紙のNo. 欄に、ページ番号を記入すること。
6. 白紙答案がある場合でも、すべての用紙に受験番号（横書き）、試験科目、ページ番号を記入して、必ず6枚すべてを提出すること。
7. 解答は、試験用紙の指定された欄に、横書きで記入すること。
8. 試験終了後、この問題冊子と下書き用紙は、持ちかえってよい。

問題 1（配点80点）

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

XとYはX所有の土地（以下、「本件土地」という）について、①売買契約を締結した。その後、②売買契約書の作成、③Yによる手付金の交付、④Yによる売買代金の支払い、⑤所有権移転登記、⑥本件土地のYへの引渡し、の順で各行為が行われたとする。

〔設問 1〕

本件土地の所有権は、①から⑥のどの段階でYに移転していると考えられるか。なお、X Y間で所有権移転時期に関する合意はないものとする。

〔設問 2〕

Yは、③の段階において、手付金額をXに没収させることにより、当該売買契約を解除できるか。なお、②の売買契約書には、「Yが売買契約を不履行の時は手付金はXが没収し、Xが不履行の時はYに手付金を返還し、同時に手付金と同額を違約金として別に賠償する」旨の条項があったものとする。

問題 2（配点80点）

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

A女と婚姻関係にあるX男は、婚姻当初から職場の事務職員Y女と不倫関係にあった。Xは、婚姻中、Yとの不倫関係を維持することを目的に、自宅近くの自己所有地に建物（以下、「本件建物」という）を新築し、未登記のままこれをYに贈与し、居住させていた。

その後、Xは、Yと不仲となったことから、Yとの不倫関係を清算したいと考え、本件建物について自己名義で保存登記をしたうえ、Yに対して本件建物の明け渡しを請求した。

これに対し、Yは、Xに対し本件建物の自己への移転登記を請求した。

[設問]

XおよびYの請求の可否について、検討しなさい。

問題 3（配点40点）

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

AとBは、○年△月婚姻し、子Cをもうけ、T市の建物（以下「本件建物」という。）に居住していた。ところがAが、勤務先の女子職員Dと異性関係を生じたことなどから、Bは離婚を決意し、＊年×月、Aに離婚を申し入れた。

そこでAは、Dと婚姻して裸一貫から出直すことを決意した。その際、本件建物でCとの生活を継続したいというBの希望を尊重し、本件建物、その敷地である土地等全部（Aにとってほぼ全財産に相当する。）を譲渡する旨の「財産分与契約」を結んだ上で、離婚届をなした。

財産分与契約を結ぶに際して、Aは、財産分与を受けるBに贈与税が課税されることを心配してこれを気遣う発言をしたが、Aに課税されることは話題にならなかったところ、離婚後、Aは自己に2億2000万円余の譲渡所得税が課される事を知った。

[設問]

Aは本件財産分与契約の錯誤無効を主張できるか。